

令和7年度 第2回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和7年6月19日（木）午前9時30分～午前10時50分

ところ：市役所5階 502会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和7年度姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業について
- (2) 令和7年度非核平和学習事業について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（5月）について（報告）
- (2) 令和6年度小平市立公民館事業実績について

【図書館】

- (1) 開館50周年記念事業講演会について（報告）
- (2) 図書館主催イベント（4月、5月）について（報告）
- (3) 図書館主催イベント（6月～8月）について
- (4) 令和6年度小平市立図書館事業統計について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 議題（１）の講演会について感想が４点ある。１点目は、地域課題であった理科離れと学びの場の不足について、しっかり取り組んでいること。２点目は、学校や地域団体、ボランティアなどのステークホルダーと連携し、熱心にボランティア活動をしていること。３点目は、市民自らが主体的に学ぶことに力を注いでいること。４点目は、講師自身がこれまで培ってきた技術などを、将来地域を担うこどもたちに対して自主的にやっていること。

技術者である講師が、地域で、科学技術を通じて、市民一人ひとりが主体的に学んでいくことを考え、活動を行っていることがとても面白いと感じた。

○委員 同じく、議題（１）の講演会について感想がある。講師は定年退職を迎えるにあたり、会社が用意した再就職への道がきっかけで、この事業をスタートしたとのことであった。講師自身が技術者であることから、技術者としての自分ができることをまず分析し、次に技術分野の知識や経験の資産をどのように活用できるかを、町田市という地域を対象として分析されたとのことであった。

講師は、町田市について、中学生を対象とした科学分野、いわゆる理系の部分に関してボランティア活動がないと分析した。その分析結果から、何が課題であるかを研究し、自身で事業企画書を作成されたとのことであった。その事業計画書をもって、自分ができることを示し、最初は少ない学校数であったが、現在は活動内容が浸透し、複数の学校で実施しているとのことであった。

講演会は、まず、活動の理念として、大事ものは何であるかを考え、導き出した理念を持って活動を進めていったとのことであった。活動内容そのものより、講師自身の思いを、どのように進めていったかについて重きを置いた内容であった。その情熱がとても伝わってくる講演会であった。

○委員 議題（１）の講演会について感想がある。委員２人からの感想にもあるとおり、とても熱心な方であった。企業戦士として活動してきた人であり、定年を迎えられて活動に取り組まれている。活動の分析に関して、参加することもたちが何人増えたことへの分析だけではなく、何年間この活動を継続することで、市内全域に普及することを想定するなど、マーケティングのようなことを行っていることに驚かされた。

○事務局 議題（１）の講演会について感想がある。講演会の内容は、専門的な話が多いとの印象を受けた。講師が情熱をもってやっていることや、定年を迎える前に、個々に計画を立て、地域に貢献していくことの思いの部分と、予定を立てて実践していることがすごく参考になると思った。

○委員 資料No.5の公民館事業実績15ページの映画会について質問がある。市民劇場や出前映画館は、16ミリフィルムであるか。昔は小学校で、16ミリフィルムの映写会が行われていたと記憶している。実績数については、映写機の古さや、技師、有資格者の少なさが反映しているのか。

○事務局 こども映画会は、今は主にDVDを使って行っている。中央公民館で行っている金曜

市民劇場は、一般向けに16ミリを使って行っている。フィルムは、基本的に都立多摩図書館の所蔵のものを借りて行っている。フィルム自体を操作できる職員も少ないが、映画そのものもかなり古い内容であることから、主に利用をいただいている方は80歳前後の方が多くなっている。利用者からは非常に好評である。

○委員 要望と質問がある。まずは、要望である。小学校では、夏休み明けの9月に、こどもたちが夏休み中に活動したことの展示会が校内で開かれる。校内全体の展示会であり、全学年分の内容が飾られていることから、全学年のこどもたち活動を知ることができる。

展示会を見ると、保護者として、夏休み中に自分のこどもに対して何かやらせたいとの気持ちになる。そのときに、市内で実施されている講座やワークショップが、とても助かっている。そこで親として、受講できる講座などを探すのであるが、人気があるものはすぐに定員が埋まってしまい申し込みができない。

また、8月後半になると、申し込みが終了している講座も多く、8月後半に駆け込みで受講できる講座が少ない。この時期に参加できる講座を充実してほしい。

また、講座としては、工作作業中心の講座で、製作したものを自宅などで飾れる講座があるとよいと思っている。今後もぜひそのような講座を開催していただきたい。

次に質問がある。資料No.9 図書館事業統計14ページの相互貸借合計に、他市、他道府県の記載がある。詳細が知りたい。

○事務局 図書館には、その図書館にしかない本などが収蔵されている場合がある、検索システム等を使って調べると、都内の他区市や他の道府県等からその情報を知ることができる。相互貸出は、手続きをすることで、その本を取り寄せて貸出できるサービスである。

貸出内容としては、研究資料としての請求や、日本国内で何点かしか所蔵されていない本など、貴重な本の貸出件数が多いのではないかと捉えている。

○委員 花小金井図書館のリクエスト件数が、中央図書館をしのぐ件数となっている理由は何か。

○事務局 近年、花小金井地区については、マンションが建設されるなど人口増加が非常に進んでいる。また、図書館に来館する利用者数も非常に多い。時間帯によってはかなり並んでしまうときがある。また、マンション建設当時はファミリー層のかかなりの数の住民が転入されたことで、児童書の在庫がなくなってしまう事態も起こった。花小金井図書館では、まだその傾向はまだ続いている。また花小金井駅に近いことから、花小金井駅の乗降客で他市に在住する人が、自宅から近い図書館として利用している。それらのことが貸出件数の多さに反映していると考えている。

○委員 2点、資料No.4 公民館主催イベントのなかまちテラスまつりについて感想がある。本校も参加させていただいた。今年は本校の児童が司会をする機会を与えていただき、地域の中で、こどもたちの活躍の場を与えてくださるのはありがたいと思っている。

また、同じ日に、資料No.7「こどものためのライブラリコンサート」が開催されていた。一緒に聞いていたが、図書館で本を読んでいる大人の方と、コンサートが一体となっており、音楽が心地よい形で流れていた

次に、資料No.5 公民館事業の実績 13 ページにある夏休み学習室について感想がある。利用者の記載がある。夏休みのこどもたちの居場所はとても大切だと考えている。小学校が休みの間、こどもたちは、いろいろな体験ができるお子さんもいれば、事情があって、地域の中で過ごしているこどもたちもたくさんいる。その中で、このようを場所がつくってくださることはありがたいと思っている。

また、夏休み学習室については、教育委員会日より 166 号で、静かな環境での個人の学習として積極的に掲載していただいていることから、地域で涼しく過ごしながらかできる場所として紹介していく。

○委員 資料No.5 公民館事業実績について、感想と質問がある。

5 ページからの館別実績状況を見ると、講座により定員数に対して倍以上の応募があり、受講数を拡大している講座が幾つかある。より多くの方々に受講してもらいたいとの公民館の思いが伝わり大変ありがたいことだと思っている。

また、中には応募者が多数であっても定員どおりに実施するしかない講座もある。それは内容によっては仕方がないこともあると思う。年間スケジュールは決まっていると思うが、抽選に漏れた方が多かった講座については翌年も企画していただきたいと思う。

次に質問である。1 点目の質問は人気の高い講座について。昨年も同様の意見が他の委員から出ていたと思うが、抽選漏れに対して何か対策したのか聞きたい。

2 点目の質問はサークル化について。自主サークル講座が多くあり、市民活動が活発になっていることはいいと思う。サークル化する際に公民館側からのアプローチがあると思うが、何か条件を示してサークル化しているのかお聞きしたい。

3 点目の質問は保育について。4 ページの館別実績集計の保育の欄は、花小金井北、上宿、大沼、鈴木市の公民館がゼロになっているが、16 ページの保育事業の欄では、上宿、大沼、鈴木市は、定期利用団体の実績があるが、花小金井北は主催事業も定期利用団体も 0 人である。理由を伺いたい。

○事務局 まず 1 点目の倍率が高く希望どおりに受講できない講座については、公民館運営審議会でもたびたび指摘をいただいている。具体的な取組として、5 ページに掲載されている万葉集の講座については、会場として用意していた部屋が、定員が 30 名であったが、机を全部撤去し、椅子を入れて、定員を多くするという対応をした。

また、メロンパンづくりの講座では、今年の秋のイベントの中で同様の講座ができないか調整している。

また、講師との調整や予算の制約などがあるが、オンラインの活用など、できることを考えていくやり方がいいのではないかと考えている。

また、各館においては、事業企画委員会に、このようなデータを反映し、再検討することも取り組んでいる。

2 点目サークル化の件については、講座の中段でサークル化のアンケート、サークル化を希望するかどうかのアンケートを取り、ある程度の人数が集まった場合は、講座終了後に話し合いをす

るなど、公民館の職員が、サークル化に向けての一定のお手伝いをさせていただいている。

サークル化は、公民館として力を入れている。サークル化を目指したい講座については、講師との調整段階から、サークル化を見据えながら話をさせていただいている。

3点目の保育については、保育サークルの傾向としては、ヨガやパン講座など、比較的集まりやすい講座がサークル化していく傾向がある。ただし、現在は、働いている女性も多いことから、で、保育サークルは全般的に減る傾向である。

花小金井北公民館については、施設の老朽化などもあり、新規の方を獲得することに館長も苦勞していることは理解している。それでも若い人に来ていただく努力はしていきたいとの考え方を共有している。

○委員 図書館の事業実績について。実施内容が、盛りだくさんであり、年々充実してきている感想を持っている。職員の人数が少ない中、どのようにやりくりをして内容の充実を図っているのか伺いたい。

例えば、おはなし会などの読み聞かせは、職員自らがやっているのか、あるいは、長けた方にお願いしているのか伺いたい。

○事務局 おはなし会については、委員のお見込みのとおりである。ボランティア団体の方がかなり大きな比重を占めてやっていただいている。職員がおはなし会等に出る機会もあるが、基本的にはこども文庫連絡協議会が、おはなし会をメインにやっていただいている。

他にも図書館友の会など、図書館の活動に協力していただいている団体がいくつかある。どの団体も、高齢化問題と後継者問題が深刻である。こどもの読み聞かせの団体なども減少する傾向であるが、40代の方で何人か入会されていることから、近年、少しずつではあるが関心が高まっている状況である。

○委員 津田塾大学の図書館がとてもすてきだとの話を聞いている。例えば大学の図書館に行く企画などをしていただくと、図書館自体に興味を持つ人が増えることもあるのではないかと思います。

次に、小・中学生サミットのことで意見がある。学校に関わるようになり20年になる。ここまで長く続けられたのは、こどもたちが笑顔で呼びかけて名前を呼んでくれたり、こどもたちとの触れ合いの中で様々な大人の方と接する機会になったりしたことで、学校に自分自身の居場所ができた実感できたことがとても大きい要因であった。

さて、サミット参加して、これまで携わってきた活動の中で考えさせられたことが一つあった。自分に関わっている小学校の行事にボランティア感謝祭があった。恐らく、学校の都合であると思うが、開催時刻が午前8時であった。開催時刻が午前8時では、ボランティアの方たちが来る時間帯としては早過ぎであった。また、ボランティア感謝祭の名称も、ボランティアの方たちからすると、小恥ずかしい感じを受け、参加しづらくなってしまったことから、結局、企画がなくなったことがあった。

サミットでのこどもたちの声を聞いていると、ボランティアなどの地域の人たちと児童・生徒が触れ合う時間、企画はとても大切なものであることを痛感した。

現在、PTAの参加率がすごく減ってきている状況である。しかし、保護者は間違いなく地域の目になる存在である。その保護者が今後地域の目として存在として広がっていくのか、あるいは広がっていかないのか、とても大事なときである。そのため、ぜひ保護者も見守っていただけるような時間帯で、ボランティアの方と子どもたちが触れ合うような企画が、学校で開催できるようになればいいなと思う。

○事務局 地域と保護者の関係であるが、市として対応している中でも、保護者の方の生活のスタイルの変化と、地域の、ある程度年配の方の生活のスタイルの違いを考慮して、どのように学校を支えていくかについて、今後も引き続き考えていかなければいけない問題だと思っている。

今年度は、特にコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を教育委員会では進めいくことから、委員から示された課題は、その取組のなかで、考えていかなければいけないと思っている。

○委員 サミットのときに、各学校から寄せられたキーワードでワードクラウドを作ってみた。スコアの高いワードは、挨拶であった。また、その周りには地域、思いやり、公助、それから暮らしやすいことが出てきた。また、感謝も入っていた。これらのことから、子どもたちは少なからず地域の方に感謝をして、その意思表示の一つとして挨拶をしているのではないかと私見であるが。

○委員 公民館の行事企画について伺いたい。資料No.5の21ページに公民館運営審議会の実績が掲載されている。運営審議会の議事録を見ると事業企画委員のなり手不足、固定化、あとはマンネリ化のことが、上がってくる。平日、出席できる事業企画委員は限られていると思う。そのため、多様な人材の確保を図るためには、議事録にも記載があったが、オンライン会議を活用することや、土日に会議を開催するなど、今後は検討すべきだと考えている。事務局の意見を伺いたい。

○事務局 事業企画委員会の、マンネリ化、なり手不足については、分館長に聞くと、館によって違いが出ている。困っていない館もあれば、逆にとても困っている館もある。その状況の中で、現時点では、常に声かけをしていくことがまず大事であると思っている。

委員に出席いただいている大沼は、夜間に開催する方法を取っている。ただ、その場合には、地域の方とか学校の関係の方が出席しにくくなる。平日に行く、土日に行く、あるいは夜間に行くなどについては、それぞれのメリット、デメリットがある。館の状況に応じて、それぞれが取り組むことが大事であるとする。

また、現在、公民館の在り方の検討をしていくことになっていることから、その中でも議論をしていきたいと考えている。

○委員 まずは、資料No.5の2ページ、3ページについて意見がある。サークルフェアや高厚生事業企画委員会は、定着化しており、素晴らしいと感じている。今まで続けてきたことを続けるのではなく、今の時代、これが必要だから取り組まれたのであると思う。

次に、高校生事業企画委員での高校生の頑張りにつながるかもしれないが、教育委員会だよりなどを見ると、小平第八小学校のコラボ商品を販売することが記載されていた。国分寺のマルイ

で開催される、アイラブ小平フェスで販売される予定である。

また、去年もあったと思うが。錦城高校映画研究部が作成した津田梅子についてまとめたドキュメンタリー作品を、公式のY o u T u b eで見ることができる。

若い世代、特に高校生、中学生、小学生が、地域に出て活動し、自分認められたと意識すること、あるいは達成感など、そのような経験が、今後の世代のこどもたちにはこれから必要であると考えている。そのことが、こどもたちの何かの成長の支援になると思う。これからも頑張って取り組んでいただきたいと思う。

他の委員から発言があったが、児童会・生徒会サミットは、それも本当にすばらしかった。これまでの感想にもあったが、挨拶というワードが、ほとんどの学校で出ていた。小平第一中学校では、挨拶と緑あふれるまちを打ち出し、まちづくりを進めていきたいとの意見が出た。

また、サミットでの児童の投げかけに対して、大人もそれに応えていきたいと考えている。サミットには、学校経営協議会の委員として出席した。今考えているのが、校長とも話しをしたが、生徒と一緒に、拡大学校経営協議会の実現するために取り組んでいこうかと考えている。

また、一中地区では、これまでコミュニティ・スクール同士のつながりがなかった。そこで、コミュニティ・スクール同士のつながりをつくるために、挨拶について、地域で取り組んでみようとなり、まずは、それぞれのコミュニティ・スクールの代表で会ってみることで話が進みそうである。そのきっかけとなったことでも、児童会・生徒会サミットの開催は、本当にありがたいと思っている。

○委 員 公民館に質問がある。委員からの指摘に、希望する講座が定員に達してしまい受講できなかった話があった。その場合に、例えば大学や学校現場であれば、すぐにW e b 配信して、他の教室でも受講できるような対策を取ることがある、公民館はそのような設備はないのか。公民館も教育施設であることから、そのような対応をしていただくとありがたいと思う。施設の改修、あるいは更新のときに予定されているとの答えかもしれないが、お聞かせいただきたい。

○事務局 オンライン開催拡大の可能性はある。以前、サテライトのための部屋を造ったこともあった。しかし、公民館として、サークル化したいとの思いが強く、一つの場集まることでの一体感を大事にする傾向があり、オンライン開催は敬遠されがちになる。

オンラインが必要なものはオンラインを活用し、仲間づくりをしていくところは仲間づくりをしていくとの、線引きが課題である。